

なりの強さで得られるのであるが、之れは恰も最も下位にある只二本の樹にある兒童の場合に當る。しかし、若し、電氣爐などで、凡そ2000度又は其れ以上まで温度を高めれば、ナトリウム原子は更にもつといろいろの現象を呈するのであつて、之れは恰も第三本目の樹に居る兒童たちが、揺り落したり投げ上げたりする機會をもつと多く持つのと同様である。又、凡そ3500度の温度を持つ電弧の場合ならば第四の樹にある兒童のやうに尙此の上にいろいろ新しい可能性を示すだらうし、次ぎに、まだもつと高温の電氣閃光の場合は、同様に、もつと上の方の兒童の場合と同じであらう。

今1930年を紀念する古人

今1930年に紀念すべき學術史上の人々を擧げて見ると——

ケプラー J. Kepler. (1571—1630) 近世天文學の開祖、遊星運行法則の發見者として、ケプラーは學史上の重要な人傑である。彼は今から300年前の1630年11月15日に死んだ。此の人の詳傳は近々に本誌へ載せる筈。

バロウ Isaac Barrow (1630年生—1677年死) 英國ケンブリッジ大學の數學天文學の教授で、トリニテイ學院の長となり、かの宇宙の引力の發見者ニウトンを教へた人であり、又當時の大宗教學者であつた。

プリウム Thomas Plume (1630年生—1704年死) グリニチ天文臺長フラムステッドに薦められてハイゲンズの著書「宇宙論」Cosmotheoros を讀み、大に感ずる所あり、遂にケンブリッジ大學に資金を寄附して大學天文臺を建設せしめ、尙ほ、天文學と物理學とを専攻する講座を創設せしめた人である。此の講座は「プリウム講座」と言ひ、コイツ R. Cotes が最初此の擔任教授となつたが、現今はエデントン A. S. Edding

ton 氏が擔任者である。又、天文臺は最初トリニチイ學院のキング門上にあつたが、今は郊外に移された。

- ベズ I** Bezout (1730年生—1783年死) 有名な數學者。
- ドサロン** Bochard de Saron (1730年生—1794年死) フランスの天文學者、始めて、ハルシエルの發見した星が遊星であると言ひ出した人。又、フランス革命で、ギロチンのために殺された學者の一人。
- メシエ** Messier (1730年生—1817年死) 一時はフランス國で最も活躍した天文家であつて、多くの彗星を發見し、ルイ第十五世王から「彗星搜し」とあだ名を貰つた名人、又有名な星雲星團目錄を作つた人。
- ボス I** Bossut (1730年生—1814年死) フランスの物理學者で、コンドルセ I Condorcet, ダランベ I ル D' Alembert, ベイリ Bailly, ラヴァジエ Lavoisier 等と交り、水力學の研究をし、又、フランス海軍の軍艦改良のために力を盡した人。
- オイベル** Aubert (1730年生—1805年死) 英國で有名なアマチュア天文家、ハルシエルの友人。
- フリリエ** Fourier (1768年生—1830年死) フランスの大物理學者。1822年に「熱の解析理論」Théorie analytique de la chaleur を著す。哲學者コムト大に之を賞揚し、今後大に學界を益するだろうと言つた。
- クレモナ** Cremona (1830年生—1903年死) イタリアの數學者、イタリア全國の數學教育を大に改善した人。
- ニウトン** H. A. Newton (1830年生—1896年死) アメリカの數學者。天文學者。流星の研究で有名である。
- ブルンス** Carl Bruhns (1830年生—1881死) ドイツの天文學者。ライプチヒ天文臺長。